

わりさうあり、小ざくらと云、日光山にあり、葉小く花も頗小く淡紅し、又阿蘭陀には黄色のさくらさうありといふ、

〔草木六部耕種法〕十花櫻草モ作法同様ナリト雖ドモ、眞土野ヲ論ズルニ及バズ、少シク砂ノ交々粉ニ成タルヲ耕此物ハ種類頗多ク、又雪割草ト云モ有リ、俗ニ小櫻ト呼ブ、日光山ニ多シ、葉モ花交置テ植ベシ、

モ小クシテ淡紅ナリ、又ホウドキト稱スル有リ、莖葉頗大ニ紅白黄ノ三色アリ、出羽奥州ニ甚多シ、此ヲ作ルニハ野土ノ粘ラザルモノ一荷ニ、炙日泥培養秘録ニ詳ナリ一荷、鶏糞五升、鯧粉五升、以上四種共能耕交タルヲ花壇ノ如クニ置テ、二月初旬ニ其根ヲ分ケ植ウベシ、或ハ馬溺ヲ澆バ花多シト云フ説有リ、然レドモ肥養ノ過タルモ宜シカラザルコト有リ、

〔武江産物志〕遊觀櫻草、紫雲英、戸田原 野新田 尾久の原すみんげあり 染井植木屋立春より七十五日

〔守貞漫稿〕生業三都トモニ市店無之唯江戸ノ陌上ヲ巡ル生業、

櫻草賣 サクラ草ハ季春ノ比賣之、瓦鉢ニ植ル、略中植木屋ト同形ノ具ヲ以テ擔ヒ巡ル、

〔書言字考節用集〕生植寶幢花又云空 空輪草又云寶

〔和漢三才圖會〕九十四末山高苣 俗云九輪草

救荒本草云、山高苣生山野間、苗葉苣地生、葉似高苣葉而小、葉脚花又頗少、葉頭微尖、邊有細鋸齒、葉間攢葶開淡黃花、苗葉味微苦、

按山高苣此云九輪草乎、似高苣葉而扁、邊有細鋸齒、而葉脚窄、葉心莖淡紫、三四月抽葶開小花似櫻草花而略大、生於莖圍、八極各一樣如車輪、至稍如此、七層或九層、宛然似浮屠九輪、故名、有紅白紫三種、結子茶褐色、其葉心莖中有紫色強糸、凡形狀乃九輪草也、唯山高苣花色黃也、九輪草花未、有黄色者以爲異、

山高苣